

## 手話言語学

Sign Language Linguistics

2 単位

大 学 名	神戸市立工業高等専門学校	担 当 教 員 氏 名	今里 典子 教授
開 講 期 間	前期 (4/7~8/8)	開 講 曜 日 ・ 時 間	木曜 1 限 (9:00~10:30)
履 修 条 件	特記事項を参照のこと	募 集 人 員	20 名程度
教 室	専攻科棟 2 階大講義室		Tel:078-795-3322 Email:office-g@kobe-kosen.ac.jp (学生課)
授 業 形 態	対面		
授 業 方 法	講義		
学 習 目 標	(1)日本手話の時雨長を言語学の視点から説明できる。 (2)手話サイナーとしての聾者と社会との関係について説明できる。 (3)日本手話を使ったコミュニケーションができる		
授 業 概 要	日本固有の言語である「日本手話 (JSL)」とはいかなることばなのか、を言語学の視点から学ぶ。少数言語使用者としてのろう者への理解を深め、医療・福祉の現場を含むさまざまな状況で手話を使った基本的なコミュニケーションが可能になることを目指す。		
授業時間学習以外の学習 (準備学習含む)	本科目の修得には、30 時間の授業の受講と、60 時間の事前・事後自己学習が必要である。事前・事後の自己学習には、学習内容に関する調査報告や関連する指定された動画の視聴レポートなどを含む。実技に関する学習は授業内で指示する。		
授 業 計 画	1	ガイダンス	
	2	聞こえのメカニズム	
	3	少数言語サイナー	
	4	手話言語の習得	
	5	ジェスチャーと手話	
	6	世界の手話	
	7	手話の構造 1 音韻	
	8	手話の構造 2 形態	
	9	手話の構造 3 文法	
	10	手話表現のまとめ	
	11	情報保障 1 社会・技術	
	12	情報保障 2 医療・福祉	
	13	情報保障 3 芸術	
	14	手話ゲーム	
	15	まとめ	
評 価 方 法	レポート (50%) および演習 (50%) で評価する。		
教 科 書	指定しない		
参 考 図 書	講義内で紹介する		
特 記 事 項	履修にあたって ・毎回の授業に出席して積極的に発言し、手話の演習を行い、基本的な手話表現を必ず習得すること。また倫理上の問題に留意することが求められる。 ・なお本講義は、日本手話学習の経験/レベルが、「ゼロ~多くとも半期程度まで」であることを想定しているため、履修希望者数が 20 名を超える場合は初学者を優先することがある。		